

まこりんだより



子どもから目を離していませんか？

子どもと一緒にいる時にママ友達とおしゃべりに夢中になって、子どもから目を離していることはありませんか？子どもは、いろんな物に興味深々です。お母さんは、自分の隣に子どもがいると思っているかもしれませんが、子どもは、目に触れるもの全てに興味があり大人しく隣にいることなんてありませんよ！（それが成長の一步でもあるのですが・・・）

ちょっと目を離した隙に道路に飛び出して行ったら・・・。考えただけで恐ろしいですね。子どもに対して、どうしてお母さんから離れてはいけないのか、をよく話して聞かせてあげてください。「お母さんから離れてはダメよ。」だけでなく、「車が来てぶつかったらどうなるか」を繰り返し話しても、なかなか子どもは、わかってくれません。

だから、いつも側にいるお父さんお母さん、子どもから絶対に目を離さないでください！！
そして、買い物や散歩のときには、必ず子どもと手をつないで行動してください！！

社会のルールを教えることが大切

1歳半から2歳代になると、ほとんどの子どもがあんよが出来るようになり行動が活発になります。また、言葉も個人差はありますが、親の語りかけに対しても話の内容を理解していないと出来ない反応をするようになります。そして、この頃になると「いやいや」の連発も始まってきます。

何をするにも子どもが反抗するので扱いに困ってしまうことも多々ありますよね？

でも、この時期に「いやいや」の連発だけでは、社会生活では通用しないという「社会のルール」を教えることも大切です。

言葉で説明しても理解できないことがほとんどですが、耳にたこが出来るまで何回も根気よく教えてください。社会のルールを教えるとき、子どもは誰よりも親の言うことに耳を傾けます。

誰でも自分が一番信頼している人の助言や注意はよく聞くのと一緒に、子どもにとって一番信頼できる存在は親だからです。親の背中を見て子どもは育ちます。背筋を伸ばして子どもの見本になるように努めてください(笑)。

子どものしつけにおける怒ると叱るの違いとは？

子どものしつけ中に叱る・怒るという言葉がありますよね。

叱るも怒るも子どものしつけにとって同じだという考えの方もいると思います。でも、怒ると叱るという事は全く別ものなんですよ！

子どものしつけには叱ることも怒ることも同じくらいあると思います。子どもにとって危ないこと、子どものために注意することが「叱る」ことだと思います。

子どもを叱る場合、親は危ないことや危険なこと、相手に悪いことをしたなど悪いことを繰り返さないために、子どもにわかるまで言い聞かせようと言う気持ちの方が大きいと思いませんか？

子どものしつけで怒るときも叱るときも、怒っているのか叱っているのか、自分自身がヒートしてしまっただけでわからなくなり、後から「さっきは一方的に怒ってゴメンね」と子どもに謝り自己嫌悪に落ちる時だってありますよね。

一方、怒るとは親の思うようにならないとか、親が感情的になってイライラするとか腹が立つ場合だと思います。

子どものしつけのために叱っているというよりは、一方的に自分のイライラをぶつけているといった気持ちの方が強いように思います。子どものしつけで怒らない親はいないと思います。逆に親も怒るのではなく叱れる親になりたいと思っているはずです。子どもを叱る時には叱る理由を話し、子どもの行動をその時に叱るのが理想ですね！！

